

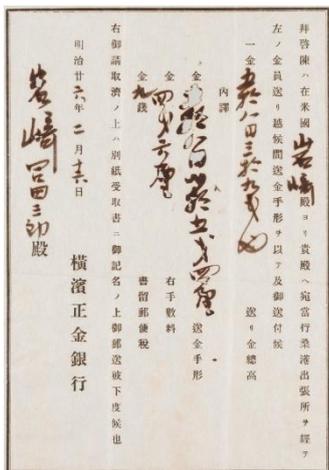
日本人移民の労働環境

—手紙でたどる明治時代の移民3—

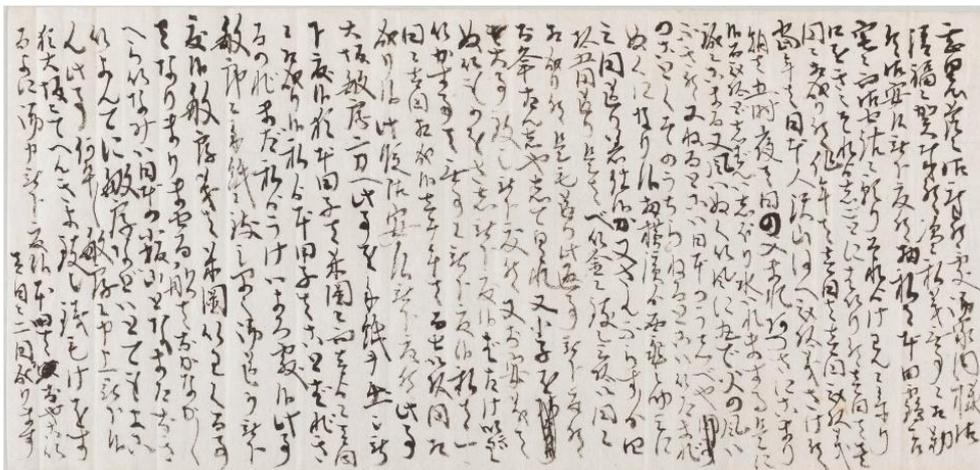
19世紀後半、国際的な分業が進展し、移民が労働力として必要とされました。しかし、移民の多くは低賃金かつ劣悪な労働環境におかれました。1892(明治25)年に和歌山県紀三井寺からアメリカ合衆国へ渡った岩崎甚四郎の手紙から、日本人移民の労働環境についてみていきます。

1 資料

【資料1】送金通知書



【資料2】妻への手紙



【資料1の翻刻】

拝啓陳ハ在米国岩崎殿ヨリ貴殿へ宛当行桑港出張所ヲ経テ
 左ノ金員送り越候間送金手形ヲ以テ及御送付候
 一金五拾八円三拾九銭也 送り金総高
 内訳
 金 五拾八円式拾五銭四厘 送金手形
 金 四銭六厘 右手数料
 金 九銭 書留郵便税
 右御請取濟ノ上ハ別紙受取書ニ御記名ノ上御郵送被下度候也
 明治廿六年二月十六日 横浜正金銀行
 岩崎富三郎殿

【資料2の大意】

暑い時期ですが、家族の皆様のご幸をお祝いします。私は無事に勤めておりますのでご安心ください。
 さて私は本田鶴吉宅にお世話になりました。賃金は一日につき一円になりまして。昨年は一日につき一円二十銭でしたが、今年は日本人が多いため二十銭下がりしました。朝は五時、夜は日没まで暑さに困っています。華氏百二十度(摂氏約四十八度)で肌着を絞れば水が出るほどです。これが誠に困ります。また風はぬるく、まるで火の風が吹いているようです。また、寝るところ日本の牛小屋のようで、私たちが寝るところは板間で暑くなっています。
 さて横浜より西亀之助さんに三円送りましたが着きましたか。またサンフランシスコより四十五円を送り、これはアメリカドルにして三十八ドルになります。これも送りましたので、この返事をください。お峯は達者にしてください。また子どもを大事にしてください。またお安には縫い物をさせてください。(中略) 私は一日につき一円になります。一年では百七十円から百八十円になります。このことご安心ください。このこと大阪の敏郎のところへ手紙を出してください。なお本田の子(本田鶴之助)はアメリカにて一日につき一円になります。私より本田の子は英語ができるので、評判が良いです。このこと敏郎に手紙にいたし早々にお送りください。敏郎はアメリカに来ることとはなりません。船はなかなか大変な波で日本の小坂山とまた大きいので敏郎はとて来られないです。このこと何卒敏郎に伝えてください。なお大阪で(商売を)勉強し、金儲けするようにお伝えください。本田は親子で一日につき二円になります。

[*資料のデジタル画像を見る](#)

2 解説

(1) アメリカへの移住者

アメリカ大陸には、原始時代にアジアからベーリング海峡を渡って移動してきたモンゴロイド系である先住民が暮らしていました。その後、16世紀にヨーロッパ人が移住を始め、先住民を強制的に働かせた結果、伝染病や過酷な労働により人口が激減、代替の労働力としてアフリカから黒人を奴隷として移住させました。その後、18世紀末にアメリカ合衆国が成立し、1861～65年には奴隷制をめぐって南北戦争が発生、戦後、奴隷制が廃止されました。奴隷労働の代替として急増した中国人やインド人、日本人などのアジア系移民が低賃金で働きました。その結果、広大な国内市場と豊富な移民労働力をもとにアメリカは繁栄の時代を迎えました。

(2) 本資料について

岩崎家文書(和歌山市紀三井寺)には、アメリカに渡った人々からの手紙などがあります。資料1は、和歌山からアメリカへと渡った岩崎甚四郎が和歌山の義兄・岩崎富三郎に送金したことを知らせる通知書です。資料2は、甚四郎が和歌山に暮らす妻・峯に送った手紙です。

資料1では、1893(明治26)年2月にアメリカの甚四郎から富三郎に58円39銭が送金されたことを知らせています。通知書を発行した横浜正金銀行は、貿易金融や外国為替を専門とした特殊銀行で、アメリカから日本への送金業務を行っていました。

岩崎家文書には送金通知書が複数あり、定期的に和歌山の親族へと送金していたことがわかります。また他の手紙には、「私(甚四郎)が分家してからはお母さん(峯)と2人で働いていたが、子が7人いるため収入が追い付かず、2人で相談して、私がアメリカでお金を儲けて、小遣いを持たせて妻と子を誘おうと思っていた」とあり、甚四郎が渡米した理由が家庭の経済的事情による出稼ぎであることがわかります。

資料2では、甚四郎が妻・峯に向けてアメリカでの近況を伝えています。甚四郎は、サンフランシスコから北東へ約120kmに位置するサクラメントで農作業に従事していました。サクラメントは、気候が温暖で周辺に河川が流れ肥沃な土地があることから農業が盛んで、農園の経営¹や農作業に従事する日本人移民が多くいました。資料2には、去年は日給1円20銭だったが今年は日給1円²に下がっていることや高温のなか働いていること、寝泊りする所はまるで牛小屋のようであることなど、厳しい労働環境が記されています。また、同郷の本田鶴之助は、英語を話すことができるので自分より評判が良いと記しています。

その後、甚四郎は病を患い、重労働が困難となり、パーキンスで日本人向けの飲食店を開業します。ただ開業後、2、3ヶ月で資金を失い、再び病気にかかってしまい、長くは続きませんでした。

1893(明治26)年7月には、峯が死去します。甚四郎は手紙で「お峯がいらないと思うと寂しくて堪らない。今度子どもの写真を送ってほしい。それを毎日見て気休めとしたい。」「お峯のことを聞いてから病気になった。1月まで働いていたが、それ以降働けず帰国しようと思ったが、この調子では船の中でとても耐えられないと思い薬を飲んでいましたが、費用がかかった。」と記しています。甚四郎は家賃を払うことができず、家主からパスポートを含む荷物を没収されていました。

そして1896(明治29)年3月、甚四郎は二度と日本の地を踏むことなく、アメリカで死去しました。葬儀は、和歌山県出身の移民が中心にお金を集めて執り行われ、アメリカで埋葬されました。



カリフォルニア州北部地図

¹ 解説シート「那賀地方の移民」の堂本家は、カリフォルニア州オークランドを中心に大農園を経営した日系人でした。

² 1900(明治33)年の日本では、日雇労働者の日給がおよそ18銭、大工職人がおよそ25銭でした。

3 活用のポイント

- **中学校社会〔歴史的分野〕の場合…C 近現代の日本と世界**

近代の日本の労働者と農民について学ぶ際、同時期の日本からアメリカへ渡った人々と比較して、労働環境や賃金、業種、社会構造などの共通点や相違点を考える活動ができます。

- **歴史総合の場合…B 近代化と私たち**

B(1)近代化への問いの「労働と家族」に関する資料として活用できます。解説シートを読み、岩崎甚四郎のアメリカでの劣悪な労働環境や賃下げの状況や、甚四郎が妻や子のために労働をしていること、手紙から垣間見える家族への思いを知ること、19世紀末の日本人移民の労働と家族に対する価値観を学ぶことができます。

- **日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界 世界史探究の場合…D 諸地域の結合・変容**

この解説シートのほか、解説シート「明治時代の交通―手紙でたどる明治時代の移民1―」、「エンジェル島と移民―手紙でたどる明治時代の移民2―」を合わせて、日本人移民に関する授業を構成することができます。各学校の実態に応じて、複数回に分けて実施することも可能です。

例えば、「なぜ明治時代の日本からアメリカへと移住する人が増加したのでしょうか。甚四郎を例に考えましょう。」と問いかけることで、この解説シートからは、甚四郎が家族を養うお金が足りないため日本と比べて賃金の高いアメリカで稼ごうとしていたことを読み取り、日本人移民が経済的な困窮からアメリカで出稼ぎをしたことや、19世紀後半のアメリカでは奴隷制廃止と第2次産業革命による工業化の進展で労働力を必要としていたことを学ぶことができます。

また、「明治時代の日本人移民を取り巻く環境はどのようなものだったのでしょうか。」と問いかけることで、この解説シートからは、甚四郎が和歌山で暮らす家族に向けて複数回送金していることから明治時代の日本人移民は日本との関係が強くあることや、劣悪な労働環境であったこと、同郷の者らによって葬儀が行われたことから現地の日本人移民のコミュニティがあったことを学ぶことができます。

4 出典

- ・【資料1】当館寄託 岩崎家文書 整理番号 656〔在米国の岩崎殿より金員お送りにつき通知〕
 - ・【資料2】当館寄託 岩崎家文書 整理番号 673〔仕事を始め、労働環境・賃金のこと、送金到着の返事くれたきことにつき書状〕
- ※文書群の詳細については、[和歌山県歴史資料アーカイブ「岩崎家文書移民関係資料（和歌山県立文書館寄託） 解題」](#)をご覧ください。

5 関連資料・ウェブサイト等

- ・[西山史朗「ある移民のアメリカ生活譚\(2\)」](#)（『和歌山県立文書館だより第60号』2021年）
- ・[西山史朗「ある移民のアメリカ生活譚\(3\)」](#)（『和歌山県立文書館だより第61号』2022年）
- ・パネル展示「手紙でたどる明治時代の移民生活」（和歌山県立文書館）
- ・[移民資料室\(和歌山市民図書館\)](#) ・ [JICA 海外移住資料室](#)
- ・[神奈川県立歴史博物館](#)…建物がかつて横浜正金銀行本店として営業されていた。

6 参考文献

- ・和歌山県史編さん委員会編『和歌山県史 近現代1』和歌山県、1989年
- ・和歌山市史編纂委員会編『和歌山市史 第3巻』和歌山市、1990年
- ・『和歌山県移民史』和歌山県、1957年